

保健・介護・医療関連、医療体制の充実

継続 垂水市地域包括ケアセンター事業 [833 万 2 千円]

◎地域包括支援センター運営事業費

垂水市地域包括ケアセンターとは

垂水市では、高齢者が、地域で暮らし続けられるような支援や体制（＝地域包括ケアシステム）整備を行う拠点施設として、介護老人保健施設コスモス苑の一角を改修し「垂水市地域包括ケアセンター」として整備、本年4月1日にオープンしました。

◎センターの構成機関

同センターは、①垂水市保健課地域包括ケア係、②垂水市地域包括支援センター、③垂水中央病院在宅療養支援部、④肝属郡医師会立訪問看護ステーションの4つの関係機関で構成されます。

◎センターの機能

高齢者が、地域で暮らし続けられるような支援や体制整備を行う拠点施設

①高齢者に関する総合相談・支援（垂水市保健課地域包括ケア係・地域包括支援センター 32-5111）

市役所の保健課・福祉課に相談した際も相談内容によっては情報を引き継ぎます。

②在宅医療の支援（垂水中央病院在宅療養支援部 32-5211・肝属郡医師会立訪問看護ステーション 36-8990）

在宅で医療が必要な方には、医療面の支援を行います。※まずは、かかりつけのお医者さんにご相談ください。

③高齢者が、地域で暮らし続けられるような体制整備

平成29年度は、在宅医療・介護連携推進事業をはじめとする4つの事業を実施いたします。

センターは中央病院裏にあり、コスモス苑の一角を改修しています



詳細はP32
でご紹介

新規 鹿児島大学医学部との連携

◎鹿児島大学医学部と幅広く連携して「健康長寿・子育て支援」に関する課題解決を目的として、鹿児島大学医学部の人材や知見を生かし、垂水市の地の利や温泉・食の宝を最大限活用し、「少子・高齢化」に対する新しい取り組みを、垂水市をフィールドにチャレンジしてまいります。

◎垂水市スーパーバイザー



鹿児島大学病院副院長の大石充教授（鹿児島大学医学部心臓血管・高血圧内科学）に「垂水市スーパーバイザー」の委嘱を4月30日に行い、同日に垂水市文化会館にて記念講演会を予定しています。

新庁舎建設関連

新規 新庁舎建設関連事業 [31 万 6 千円]

◎新庁舎建設検討委員会開催に係る謝金、旅費等

建設後50数年が経過し、早急な対策が求められていることから、平成28年度中に庁内で組織されている垂水市庁舎建設等庁内検討委員会から新庁舎建設の検討結果報告を受ける予定でございます。

この検討結果を議会へ報告をしたのち、市民の代表や学識経験者等で組織する外部検討組織を立ち上げ、基本構想・基本計画づくりに着手したいと考えております。

その拠点となる施設としてコスモス苑内に整備しておりますた「垂水市地域包括ケアセンター」が、いよいよ本年4月から稼働いたします。施設内には垂水市の「包括支援センター」と、肝属郡医師会の「訪問看護ステーション」が設置され、連絡調整機能が強化され、よりきめ細やかな対応ができるものと

期待しております。

垂水徳洲会病院が3月末をもって閉鎖することから、市民の皆様は医療・介護等への不安が生まれ、市民満足度調査においても、市民ニーズが高く、思い切った取り組みが必要との結果がでております。このことから、鹿児島大学医学部や肝属郡医師会と連携を強化し、まずは地域医療のあり方について、あわせて垂水中央病院の機能充実について、方向性を示せるよう検討を進めてまいります。また、何より一番大事なことは市民の皆様が健康について意識を高くしていただくことかと存じます。乳幼児期から高齢期に至るまでの継続した健康づくり事業の充実が重要性を増してきております。これらの事業推進のためには鹿児島大学、鹿屋体育大学をはじめとする各分野の専門機関との連携が不可欠となりますので、強固な協力体制の構築を図ってまいります。

生活環境関連

継続 浄化槽設置整備事業 [5,543 万 8 千円]

◎合併処理浄化槽設置者に対する補助金

家庭からの生活排水浄化を目的とした浄化槽設置整備事業による合併処理浄化槽への転換を進めておりますが、市単独による上乗せ助成効果も出ておりますので、引き続き、推進してまいります。

5 生活環境関連

7 保健・介護・医療関連 医療体制の充実

鹿児島県は全国に比べ高齢化が進展し、後期高齢者の割合も高くなっておりますが、その中でも本市は高齢化率が上位に位置する地域となっております。

医療及び介護保険制度の存続のため、国による社会保障費の抑制施策が次々と打ち出される中で地域包括ケアシステムの構築は本市にとって喫緊の課題であり、地域包括ケアシステムを推進していく上で、医療、介護及び健康政策の連携が不可欠でございます。

期待しております。